

# 松ほっくり

## ◆国松石材株式会社

発行所/国松石材株式会社

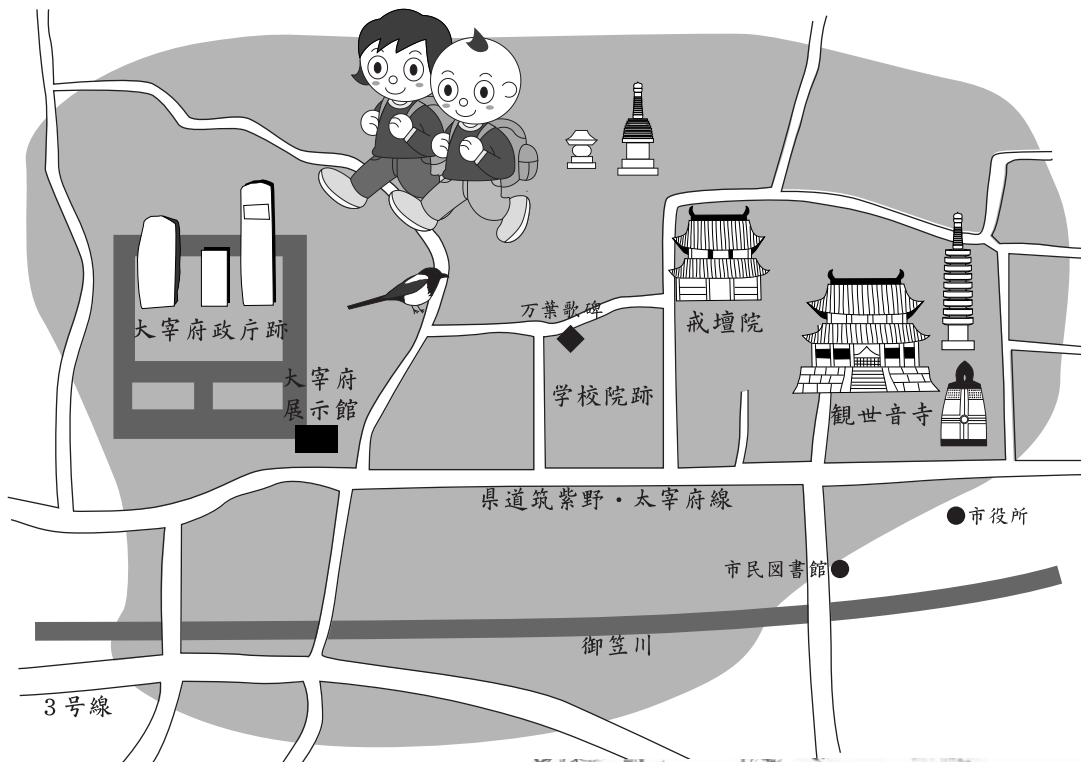
本 社 福岡市博多区下呉服町8-35  
 営業本部 粕屋郡志免町南里11-5  
 TEL 092-957-3500/FAX 092-957-3505  
 墓石ガーデン 福岡市東区香椎472-3 (三日月山霊園下)  
 TEL 092-672-7257/FAX 092-672-7258  
 工 場 福岡市東区松田3-16-12  
 TEL 092-629-1189/FAX 092-629-2043

ホームページ <http://www.kunimatu.com>

### 2006年 春号

## 大宰府探訪

九州国立博物館のオープンで注目される大宰府は、今からおよそ1300年前、「遠の朝廷」と歌に詠まれるほど栄えていました。九州の政治の中心地、防衛と外交の拠点となっていた大宰府。今回は、古代ロマン薫る大宰府を散策してきました。



■宝蔵  
 開館時間 9:00~17:00  
 料 金 大人500円、高大生300円、  
 小中生150円  
 休 館 日 無休  
 駐 車 場 20台(無料)  
 電話番号 092-922-1811

梵鐘(国宝)

九重の塔

観世音寺講堂

まずは観世音寺からスタート。観世音寺は、齊明天皇追悼のため、天智天皇の発願によって建てられたお寺です。80数年かけて天平18年(746年)に完成しました。大宰府の庇護のもと九州中の寺院の中心となり、「府の大寺」と呼ばれていました。かつては、南大門、中門、五重塔、講堂、金堂、講堂、鐘楼、経蔵など、七堂伽藍を備えた大寺院でしたが、火災や台風に遭い、現在は江戸時代初めに再建された講堂と金堂のみが残っています。このほかにも境内には国宝に指定されている日本最古の梵鐘が残っています。鐘楼に金網がかかってはいますが、国宝を間近で見ることができません。鐘楼の裏手には、平安時代から鎌倉時代にかけての仏像(全て重要文化財)が数多く安置されている宝蔵があります。仏像の中には4mから5mを超えるものが3体あり、その迫りに圧倒されます。

宝蔵を出て左に向かうと、奥に万成石の九重の塔があります。この九重の塔は、昭和35年に弊社で建立させていただきました。石造美術研究の第一人者である川勝政太郎先生に師事していた先代が美しい形を追求して造ったものです。石肌に触れると職人の手仕事の温かさが伝わってきます。

講堂の脇の道を抜け、寺の裏に廻ってみましょう。

寺の裏の道を大宰府政庁跡方面へ進みます。このあたりはのどかな風景が広がっています。幼稚園のお迎えか自転車の後に孫を乗せたおじいさんが「春になったらお花がいっぱい咲くよ」と言いながら通り過ぎて行きました。散歩を楽しんでいる人もちらほら。

しばらく道なりに進むと、左手に原っぱが見えてきます。ここは学校院跡といい、奈良時代、官吏養成のための学校院（学院）が置かれていた場所です。明経・算・医の3学科があり、九州一円の国司、郡司の子弟が学んでいました。ここに昨年11月、新しく万葉歌碑が建ちました。万葉歌碑は大宰府に赴任した大伴旅人や山上憶良を称えるために太宰府市内に23箇所建てられています。この歌碑の歌人は山上憶良の子供のことを思って詠んだ歌が刻まれています。万葉歌碑を訪ねて歩くのもおもしろいでしょう。

右に四王寺山を眺めながら、歩を進めます。頭上でガサゴソ何やら音がしてきました。見上げるとカラスよりもひとまわり小さく、黒い体に白いベストを着たような柄の鳥が電柱に巣を作っているではありませんか。調べてみるとこの鳥はカササギと言って佐賀平野と筑後平野を中心に生息している鳥だそうで、佐賀ではカチガラスとも



呼ばれているそうです。なんでも豊臣秀吉の朝鮮出兵に参加した佐賀藩主鍋島直秀が朝鮮半島から持ち帰ったのが繁殖したのだとか。うくん、鳥ひとつとってみても歴史を感じますねえ。そうこうしているうちに大宰府政庁跡にやってきました。まずは脇にある大宰府展示館に入ってみましょう。ここには大宰府跡の発掘調査で出土した平安時代の溝がそのまま公開されています。他にも大宰府の歴史を紹介する出土品や復元模型などの資料が展示されています。ボランティアの大宰府史跡解説員の方もいて史跡めぐりの案内をしてくれるそうです。（要予約）



■大宰府展示館  
開館時間 9:00~16:30  
料金 大人150円、小中高大生無料  
休館日 月曜日、年末年始  
(祝祭日の場合はその翌日)  
駐車場 無  
電話番号 092-922-7811



▲発掘調査中  
このあたりでは住宅を建て替えるとき、必ず発掘調査をしなければならないそうです。

▲万葉歌碑



▲戒壇石  
「葷酒肉、境内に入るを許さず」

戒壇院◆奈良時代に観世音寺に置られました。日本三戒壇の一つに数えられています。戒壇とは僧尼として守るべき戒律を授ける所で、ここで戒めを受けなければ正式の僧尼とは認められませんでした。江戸時代には観世音寺を離れ、現在は禅寺となっています。本尊の盧舎那仏は平安時代末の作で、重要文化財に指定されています。境内には鑑真和上が請来したといわれる菩提樹があります。



▲大宰府政庁跡

大宰府政庁は7世紀後半、九州全体の政治の中心地、防衛と外交の拠点として置かれました。奈良・平安の時代にかけて「遠の朝廷」と呼ばれ栄えていた大宰府政庁の規模は平城京、平安京に次ぐ大きなものだったそうです。一見ただの原っぱのようですが、今も史跡の中心部分には当時の建物の大きさを偲ばせる数多くの礎石が残り、門や回廊、周辺の役所などが平面復元され、史跡公園として整備されています。その昔、華麗で壮大な建物が建っていたころは、お役人しか入れなかったこの場所に、1300年後の今、いろいろな人がここを訪れ、それぞれに楽し

んでいます。近くの学校の運動部でしようか揃いのジャージでトレーニングをしている学生達、犬を連れただおじいさん、よちよち歩きの子とお母さん。まだ少し冷たい風に吹かれながら、そんな風景を眺めていると「時は流れるものだなあ」と、ちよつとロマンチックなことを思ってしまった。この春は、大宰府で古代ロマンの風に吹かれてみませんか。

交通アクセス  
西鉄「五条駅」下車徒歩15分

# 梵字

お墓や五輪塔に刻まれた読むことの出来ないマークのようなものを見たことがないでしょうか。

これは、「梵字」と呼ばれ、梵語（古代インドのサンスクリット語）を表記するとき用いる文字です。一字一字が意味を持っています。

身近な平仮名の音の五十音の配列は、梵語字母の配列にならって生まれたものとされています。日本語の「あ」は、密教で、始まり・本源・究極を意味します。仏教用語の多くは、元来梵語だったものを日本語に訳したものでした。例えば、阿弥陀、盂蘭盆、袈裟、金比羅、釈迦牟尼、卒塔婆、達磨、南無、仏陀、涅槃、菩提、曼陀羅等が挙げられます。

梵字の歴史を探ると、マウリア王朝第三代王、阿育王（アシヨーカ王、前268〜前232在位）の時代に発達

したインド諸国全文字の根源といわれる、ブラーフミー文字にたどり着きます。

ブラーフミーは「ブラフマン（梵天）の書」または「梵書」などと訳されます。

日本へは、インドから中国を経由して、遣隋使・遣唐使の時代にブラーフミー文字が変化した悉曇文字が伝来しました。梵籙「法隆寺貝葉梵本」（東京国立博物館所蔵）は、その悉曇文字で書写された世界最古の貝葉写本です。

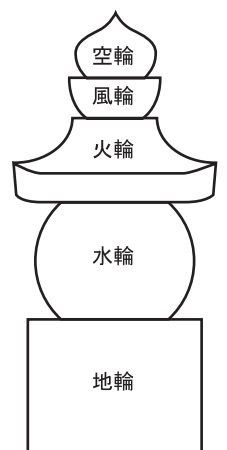
この悉曇文字は、インドでは、時代の変遷とともに変化したのにも関わらず、日本では、一四〇〇年の時を経て今日も変わらず生き続けています。

### ◆諸尊の種子

種子とは、各尊を一字あるいは二字で標示したものです。多くの場合、悉曇文字を用います。種子は、各一つとは限らず、数種あるものが多くあり

ます。たんに仏様を表現する記号ではなく、この字そのものがそのまま仏様であるという思想のもとに描かれます。お墓に梵字を彫刻するようにになったのは、刻んだ種子に仏様にご先祖様の成仏を願うことなのです。

インターネットで梵字を検索しているところ、梵字シールを販売しているサイトを発見しました。携帯電話のほか、サーフボードやスノーボード、ヘルメット等にお守り代わりに、さりげなくワンポイントで入れるのが人気だそうです。これからは、墓所だけでなく、繁華街や海や山で梵字に遭遇するかもしれません。



■五輪塔に刻まれる種子

発心 (表)	キヤ	カ	ラ	バ	ア
修行 (向左)	キヤ	カー	ラー	バー	アー
菩提 (裏)	ケン	カン	ラン	バン	アン
涅槃 (向右)	キヤク	カク	ラク	バク	アク

大日三尊 (金剛界)	大日如来 (金)	金剛菩薩	降三世明王	大日三尊	大日如来 (金)
アーク	バン	サトバン	ウン	バン	バン
大日三尊 (胎藏界)	般若菩薩	不動明王	阿弥陀如来	阿弥陀三尊	阿弥陀如来
アーク	ジニヤ	カンマン	キルク (キリーク)	キルク (キリーク)	キルク (キリーク)
不動明王	勢至菩薩	聖観音	愛染明王	不動明王	不動明王
カンマン	ウン	サ	ウーン	カンバン	カンバン
釈迦三尊	薬師如来	薬師三尊	釈迦如来	釈迦三尊	釈迦如来
バク	バイ	バイ	バク	バク	バク
普賢菩薩	月光菩薩	日光菩薩	普賢菩薩	普賢菩薩	普賢菩薩
アン	シャ	ア	アン	アン	アン

【参考文献】『月刊石材』2005年8月号特集「梵字とお墓の基礎知識」



# 町名散歩

## 第十回

### 新天町

今回の町名散歩は『好きです、私たちの福岡』のキャッチフレーズでお馴染みの新天町を紹介します。

新天町は西鉄福岡駅に隣接しており、交通の便が良く、商店街にはおよそ90店舗の老舗や専門店などが並んでいます。

創業は終戦直後の昭和21年。福岡市で最初に開設された商店街で、今年、60周年を迎えました。戦争で荒れ果てた町を、博多の商人達が元気な町を取り戻そうと一丸となって立ち上がり、この新天町は生まれたのです。当初の商店街は、木造瓦ぶきの2階建ての建物が東西に4列並び、12棟の建物でした。

長い歴史がある新天町は、商店街として日本初の試みを数多く実践してきました。まずは、アーケード内の冷暖房の完備です。一年中天気を気にせずに買い物を楽しめます。商店街に社員食堂を設けたのも新天町が初めてです。一般のお客様も気軽に利用でき、メニューも豊富に揃っていて値段も手頃なので人気の食堂です。商店街のテーマソングをつくった

のも日本初です。曲名は「新天音頭」、レコード化もされました。大きなからくり時計のメルヘンチャイムを設置したのも新天町が初めてです。オランダ製の12個の鐘がメロディーを奏で、からくり人形がそれに合わせて動き出します。その可愛らしさについて足を止めて眺めてしまいます。

新天町は博多の伝統行事や伝統工芸も大切に受け継がれています。通路は博多織の「献上」をモチーフにしたタイルを張り合わせています。どんたくや山笠をはじめ、四季を通じて様々な楽しいイベントも催されています。

商業施設が林立する天神地区で、今も多くの人々に愛され続けている新天町には、温かい人情が溢れていました。全国にはたくさんさんの商店街がありますが、その一つ一つがそれぞれの歴史を刻み込んで、いろんなドラマを作り出しているんだなと思えました。

地域に密着している商店街こそ、私たちが信頼して安心できる場所のように感じます。新天町の歴史を知り、さらに私たちの町が好きになりました。



## 初夏のハイキングのお誘い

爽やかなこの季節、山歩きを楽しみませんか？今回の目的地の福万山は由布盆地の北西にある草原が美しい山です。登山についても教えていただきます。是非、ご参加ください！

目的地：福万山(1236m)大分県由布市(旧湯布院町)

日時：平成18年5月27日(土)

コース：博多駅～福岡空港～福万山～温泉～湯布院 道の駅～福岡空港～博多駅  
午前8:30 午前8:45 午後6:30 午後7:00

◎マイクロバスにて移動

歩行時間：往復3時間半(途中昼食が入ります)

参加費：3,000円(税込)※昼食弁当付、温泉入浴料、バス代、ガイド代を含みます。

募集人数：19名

お申し込み：同封のハガキにてお申し込み下さい。

締め切り：平成18年4月15日(土)必着 ※定員に達し次第締め切らせていただきます。

◎詳細は後日、参加者の方にお知らせいたします。

お問合せ ☎ 0120-245400 担当：高田/中西  
(092-957-3500)



## 第4回「松ぼっくり杯」ゴルフコンペ結果報告

昨年(17)年の10月16日(日)、福岡サンレイクゴルフ倶楽部にて松ぼっくり杯ゴルフコンペが行われました。社員を含めた6組・22名による大熱戦の結果は以下の通りとなっています。

優勝 村山 徳郎様 (ネット73 グロス91)

準優勝 篁林 時生様 (ネット73 グロス91)

※優勝、準優勝は同じネット、グロスです。生年月日での結果でございます。

次回もたくさんのご参加お待ちしております。

## プレゼント当選者発表

厳正なる抽選の結果、次の方々が当選されました。たくさんのご応募ありがとうございました。

①商品券5,000円分

梶原良治様、齋藤浩美様、杉野文雄様、眞鍋峰子様

②防災セット

小田静代様、他4名様

③ハンディライトAM/FMラジオ付

麻生邦夫様、他14名様

